

# 1. 年齢階級別退院患者数

- ・入院年月日に関わらず、平成29年4月～平成30年3月に退院した患者さまを10歳刻みの年齢階級別に集計しています。
- ・年齢階級は90歳以上を1つの階級として設定しています。

年齢階級（歳）	0歳代	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
退院患者数（人）	209	74	84	123	214	464	1098	1645	1298	365

当院は地域中核病院、地域医療支援病院として機能しています。  
幅広い年齢層の患者様にご利用いただいておりますが、社会の高齢化に伴い70歳以上の患者様が多く全体の59%を占めています。  
前年度と比較すると約3%増えており高齢化が進んでいます。

## 2. 診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

各診療科別に患者数の多いDPC14桁分類についてDPCコード、名称、患者数、自院の平均在院日数、全国の平均在院日数、転院率、平均年齢を集計しています。公表の集計ルールに従い10未満の数値の場合は、－（ハイフン）を記入しています。

### 【内科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	38	26.24	20.83	7.89%	85.68
110280xx99000x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	37	8.89	12.23	0.00%	68.03
180010x0xxx0xx	敗血症（1歳以上） 手術・処置等 2 なし	27	20.33	19.01	0.00%	81.22
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	24	12.71	12.34	4.17%	72.83
0400801499x002	肺炎等（市中肺炎かつ75歳以上） 手術なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし A-DROP スコア2	24	18.04	15.12	8.33%	86.54

内科では誤嚥性肺炎が最も多くなっています。当院は呼吸器科常勤医不在のため呼吸器疾患は総合診療科が中心となって加療を行っています。誤嚥性肺炎は再発の多い疾患で、今後高齢化が進むことにより更に増加が予想される疾患です。次いで慢性腎臓病の疾患が多くなっています。慢性腎臓病では腎臓以外に心臓病、貧血、脳血管障害、骨疾患など他の臓器の併発症が多く、全身管理を包括的に診療することが重要です。総合内科専門医、糖尿病専門医、透析専門医、プライマリ・ケア専門医を中心に他診療科とも密に連携をとり、腎機能の温存を目指しています。

### 【消化器内科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。） その他の手術あり 手術・処置等 2 なし	50	13.72	11.44	0.00%	74.90
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	41	14.37	10.61	2.44%	77.83
180010x0xxx0xx	敗血症（1歳以上） 手術・処置等 2 なし	39	22.97	19.01	7.69%	78.03

060210xx99000x	ヘルニアの記載のない腸閉塞 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	37	10.43	8.98	0.00%	77.35
060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 手術・処置等 2 なし	37	9.68	8.73	2.70%	75.35

消化器内科では肝細胞癌の疾患が最も多くなっています。  
 当院は日本肝臓学会の認定施設であるとともに播磨姫路医療圏域の肝疾患専門医療機関に選定されています。西播磨肝癌撲滅運動の中心的役割を担い  
 地域医療に貢献しています。  
 次に総胆管結石、胆管炎の疾患が多くなっています。最新の内視鏡・超音波装置等で最先端治療を提供できるようにしています。

#### 【循環器科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
050050xx99200x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等 1 - 2あり 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	167	3.89	3.19	0.00%	71.80
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等 1 - 1あり 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	131	3.70	3.03	0.76%	69.91
050050xx02000x	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等 1 - なし、 1, 2あり 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	128	6.20	4.62	0.78%	70.07
050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	82	17.05	17.71	4.88%	83.46
050070xx01x0xx	頻脈性不整脈 経皮的カテーテル心筋焼灼術 手術・処置等 2 なし	80	8.32	5.30	1.25%	67.86

循環器科では虚血性心疾患に対する圧ワイヤーを用いた生理的虚血検査や血管内超音波検査や光断層法（OCT）を用いた血管内イメージングを併用した  
 心臓カテーテル検査入院が最も多くなっています。この検査は狭心症、心筋梗塞などの最終検査として有用です。  
 カテーテル検査で異常を認めた患者様には至適内服療法に加えて、心臓カテーテル治療で細くなった心臓の血管を広げたり、ロータブレーター（高速回転のドリル）  
 で削ったり、心臓の血管の中に金属の網目状の筒（ステント）を入れる治療を行っています。

#### 【小児科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
100380xxxxxxx	体液量減少症	47	4.94	9.16	0.00%	2.66

040130xx99x0xx	呼吸不全（その他）手術なし 手術・処置等 2 なし	35	6.74	10.84	0.00%	1.80
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重2500g以上）手術なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	13	3.46	6.18	0.00%	0.00
040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）副傷病なし	—	—	5.94	—	—
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	—	—	5.48	—	—

小児科では体液量減少症が最も多くなっています。  
その主な疾患は脱水症です。小児は感染や胃腸炎など脱水の原因となる疾患に罹る機会が多く、病気に罹ると経口的な水分摂取量が少なくなりやすいためです。  
次いで呼吸不全が多くなっています。気管支炎や肺炎から呼吸機能障害を発症しています。

【外科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	43	8.51	7.40	0.00%	66.16
060040xx99x70x	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 7 あり 副傷病なし	29	4.55	4.81	0.00%	68.72
060040xx99x60x	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 6 あり 副傷病なし	27	3.33	4.38	0.00%	59.41
060040xx99x50x	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 2 - 5 あり 副傷病なし	24	3.29	4.31	0.00%	66.83
060150xx03xxxx	虫垂炎 虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの等	21	6.86	5.56	0.00%	35.76

外科では消化器系疾患が多く外科全体の85%を占めています。従来的一般外科・消化器外科治療に加え3D腹腔鏡下を用いた低侵襲手術に積極的に取り組んでいます。  
腹腔鏡下で胆嚢摘出術を行った胆石症、胆嚢炎の疾患が最も多くなっています。  
次いで直腸癌の化学療法のために計画的入院を繰り返している患者様が多くなっています。

【整形外科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	58	49.24	27.09	10.34%	84.62
160690xx99xx0x	胸椎、腰椎以下骨折損傷（胸・腰髄損傷を含む。）手術なし 副傷病なし	41	42.10	19.94	4.88%	81.46
160760xx97xx0x	前腕の骨折 手術あり 副傷病なし	29	10.28	5.21	0.00%	57.28
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。）腱縫合術等	25	7.60	11.41	0.00%	53.84
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。）人工関節再置換術等	23	37.09	25.09	0.00%	74.09

整形外科では大腿骨頸部骨折等の高齢者骨折を始めとした外傷疾患が多くなっています。  
 外傷疾患に対して、MRI、CT、骨シンチ、関節造影、膝関節鏡、脊椎造影、筋電図等の検査を取り入れて外科的治療を軸とした診療を行っています。  
 股関節、脊椎疾患、膝関節の手術を積極的に行うとともに、機能障害が残らないようリハビリテーションの充実を図っています。

【形成外科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等 1 なし	11	4.27	4.14	0.00%	56.55
070010xx010x0x	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等 1 なし 副傷病なし	—	—	5.80	—	—
080006xx01x0xx	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）皮膚悪性腫瘍切除術等 手術・処置等 2 なし	—	—	8.50	—	—
180060xx97xxxx	その他の新生物 手術あり	—	—	6.45	—	—
090010xx05xxxx	乳房の悪性腫瘍 組織拡張器による再建手術（一連につき）乳房（再建手術）の場合等	—	—	8.02	—	—

形成外科ではからだの表面のけがや病気に手術治療やレーザー治療を行っています。  
 皮膚にできものができたり、手や顔をけがした患者様が多いですが、対応疾患は多岐に渡っています。  
 最も多い疾患は皮膚の良性腫瘍です。次いで四肢・躯幹軟部腫瘍が多くなっています。  
 手術後は外見だけでなく、機能についても治療を行っています。

【脳神経外科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 - 4あり 副傷病なし 発症前Rankin Scale 0、1又は2	23	19.96	16.38	21.74%	74.96
010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満）手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	15	35.73	19.10	53.33%	71.47
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	10	9.90	9.68	0.00%	75.10
010070xx9910xx	脳血管障害 手術なし 手術・処置等1あり 手術・処置等2なし	10	3.00	3.25	0.00%	76.10
010050xx02x00x	非外傷性硬膜下血腫 慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術等 手術・処置等2なし 副傷病なし	-	-	11.75	-	-

脳神経外科では脳血管障害、特に脳梗塞の入院が最も多くなっています。  
 脳保護療法としてエダラボン（ラジカット）を用いた療法が脳神経外科全204症例の約20%を占めています。  
 次いで脳内出血の疾患が多くなっています。血圧コントロールと全身状態が落ち着いてくると早期にリハビリテーションを開始して再発予防を行っています。

【産婦人科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
120070xx02xxxx	卵巣の良性腫瘍 卵巣部分切除術（腔式を含む。） 腹腔鏡によるもの等	-	-	6.37	-	-
120060xx01xxxx	子宮の良性腫瘍 子宮全摘術等	-	-	9.91	-	-
120160xx99xxxx	妊娠高血圧症候群関連疾患 手術なし	-	-	7.45	-	-
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	-	-	9.27	-	-
12002xxx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・処置等2なし	-	-	12.94	-	-

産婦人科の診断群分類別患者数では良性の卵巣腫瘍、子宮筋腫に手術を行った症例が多くなっています。  
 良性疾患では、卵巣腫瘍摘出術、子宮筋腫核出術、子宮全摘術等、腹腔鏡手術を積極的に行っています。

## 【耳鼻咽喉科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	29	5.03	5.15	0.00%	70.45
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	17	7.71	8.01	0.00%	31.71
030350xxxxxxxx	慢性副鼻腔炎	14	6.43	7.23	0.00%	59.07
100020xx01x0xx	甲状腺の悪性腫瘍 甲状腺悪性腫瘍手術 切除等 手術・処置等 2 なし	—	—	9.20	—	—
030240xx99xxxx	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 手術なし	—	—	5.48	—	—

耳鼻咽喉科では急性疾患である末梢性めまいが最も多くなっています。  
めまいは様々な原因で起こるため、どんなときに、どんなめまいが、どんな症状を伴って、どのくらいのあいだおきたか、診断のポイントが重要な疾患です。  
抗めまい剤を投与し安静を保ちます。  
次いで多いのは扁桃、アデノイド慢性疾患です。慢性扁桃炎に対して口蓋扁桃手術を行っています。

## 【皮膚科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	—	—	11.73	—	—
080250xx99x0xx	褥瘡潰瘍 手術なし 手術・処置等 2 なし	—	—	24.55	—	—
161060xx99x0xx	詳細不明の損傷等 手術なし 手術・処置等 2 なし	—	—	4.01	—	—
161070xxxxx00x	薬物中毒（その他の中毒） 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	—	—	3.58	—	—
080020xxxxxxxx	带状疱疹	—	—	8.95	—	—

皮膚科では急性膿皮症が多くなっています。急性膿皮症の主な疾患は蜂窩織炎です。  
高熱を伴い、外来治療では十分な治療を行えない患者様の入院治療を行っています。



【泌尿器科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 なし	33	8.82	7.31	0.00%	75.79
110200xx02xxxx	前立腺肥大症等 経尿道的前立腺手術	16	9.44	9.73	0.00%	72.50
110080xx99030x	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 3 あり 副傷	15	30.80	14.81	6.67%	76.87
110080xx9902xx	前立腺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 1 なし 手術・処置等 2 - 2 あり	-	-	26.31	-	-
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	-	-	12.34	-	-

泌尿器科の診断群分類別患者数では膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）を行った膀胱癌が多くなっています。  
次いで前立腺手術（経尿道的手術）を行った前立腺肥大症が多くなっています。

【麻酔科】

DPCコード	名称	患者数	平均在院日数		転院率	平均年齢
			自院	全国		
071030xx99xxxx	その他の筋骨格系・結合組織の疾患 手術なし	-	-	9.88	-	-
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等 2 なし 副傷病なし	-	-	9.68	-	-

麻酔科はその他の筋骨格系・結合組織の疾患の入院となっています。下肢痛の急性増悪に対する疼痛緩和目的入院です。



### 3. 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

- ・5大癌について初発患者はUICCのTNMから示される病期（ステージ）分類による患者数を、再発患者（再発部位によらない）は期間内の患者数として集計しています。
- ・公表の集計ルールに従い10未満の数値の場合は、－（ハイフン）を記入しています。
- ・患者数は延患者数とする。

部位	UICC病期分類(ステージ) (初発)					再発	病期分類基準(※)	版数
	I	II	III	IV	不明			
胃癌	49	6	－	27	－	17	1	7
大腸癌	20	29	100	75	28	49	1	7
乳癌	12	25	－	－	－	－	1	7
肺癌	0	0	0	－	－	－	1	7
肝癌	－	－	－	21	－	48	1	7

※1：UICC TNM分類 2：癌取り扱い規約

※UICC病期（ステージ）とは、がんの進行状態を占めたものであり、0期からIV期の5つに分類されます。  
0期に近いほどがんが小さくとどまっている状態であり、IV期に近いほどがんが広がっている状態となります。

当院は、国指定のがん診療連携拠点病院として指定を受けています。兵庫県内には14病院が国指定のがん診療連携拠点病院として指定されていますが、当院は播磨姫路医療圏の拠点病院です。  
がん診療に有効な検査法のひとつである、最新のPET-CTを導入しています。  
疾患別では胃癌はI期、IV期、大腸癌はIII期、IV期、乳癌はII期、I期、肺癌はIV期、肝癌はIV期で見つかる割合が高くなっています。  
初めて見つかった時にすでにステージIIIであると再発率も高くなっている傾向があります。  
手術療法、化学療法、放射線療法、緩和療法と集学的な治療を行っています。

## 4. 成人市中肺炎の重症度別患者数等

成人（20歳以上）の市中肺炎につき重症度別患者数、平均在院日数、平均年齢を集計しています。  
重症度は成人市中肺炎診療ガイドライン（日本呼吸器学会）による重症度分類システム（A-DROP）を用いて分類しています。

○成人市中肺炎  
普段の生活の中にかかる肺炎のことです。

	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	10	8.00	56.80
中等症	27	19.15	85.81
重症	79	15.34	82.87
超重症	14	28.93	80.64
不明	0	0.00	0.00

患者数が多いのは重症区分です。  
平均年齢が後期高齢者の年齢層になっており、成人市中肺炎は高齢になるほど重症化し、入院日数も長期化しています。

## 5. 脳梗塞の患者数等

- ・脳梗塞の患者数、平均在院日数、平均年齢、転院率を集計しています。
- ・医療資源を最も投入した傷病のICD-10がI63\$である症例を集計しています。
- ・公表の集計ルールに従い10未満の数値の場合は、－（ハイフン）を記入しています。

ICD10分類	傷病名	発症日から	症例数	平均在院日数	平均年齢	転院率
I63\$	脳梗塞	3日以内	77	31.48	79.74	32.56%
		その他	－	－	－	－

脳梗塞入院は国際統計分類として、I63\$（脳梗塞）と分類されます。発症3日以内の急性期脳梗塞が多くなっています。  
平均年齢は79歳で高齢者の方が多くなっています。1か月程度の入院期間で治療とリハビリを行います。  
脳卒中地域連携パスを使用し、地域の医療機関と連携をとりながら退院調整を行っています。

## 6. 診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

- ・同一手術において複数の手術手技を行った場合、主たるもののみカウントしています。
- ・診療科別に手術件数の多い順に5術式について、患者数、術前日数、術後日数、転院率、平均年齢を示したものです。
- ・輸血関連（K920\$）除外しています。
- ・創傷処理、皮膚切開術、非観血的整復術、徒手整復術、軽微な手術およびすべての加算は除外しています。
- ・公表の集計ルールに従い10未満の数値の場合は、－（ハイフン）を記入しています。

○Kコード

手術術式の点数表コードです。

【内科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K610-3	内シャント設置術	13	8.15	21.69	15.38%	68.85
K6147	血管移植術、バイパス移植術 その他の動脈	－	－	－	－	－
K635-3	連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術	－	－	－	－	－
K654	内視鏡的消化管止血術	－	－	－	－	－
K664	胃瘻造設術（PEG）	－	－	－	－	－

内科では腎臓疾患の患者様が多く、人工腎臓導入に対する内シャント設置術、腹膜灌流に対する連続携行式腹膜灌流用カテーテル腹腔内留置術が主な手術となっています。

【消化器科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術 長径2センチメートル未満	180	0.22	1.44	0.56%	67.97
K6152	血管塞栓術（頭部、胸腔、腹腔内血管等）（選択的動脈化学塞栓術）	50	3.10	9.62	0.00%	74.90
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	38	2.00	16.24	2.63%	82.18
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術	37	1.00	7.62	2.70%	75.35

K6871	内視鏡的乳頭切開術 乳頭括約筋切開のみのもの	23	2.87	15.48	8.70%	79.00
-------	------------------------	----	------	-------	-------	-------

消化器内科では大腸ポリープに対する内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術を最も多く行っています。  
 近年外来でも施術可能な手術となってきましたが、当院は安全に行うことを目的に1泊2日の入院で行っています。  
 次いで肝腫瘍に対する治療の肝動脈塞栓術（TAE）となっています。  
 肝疾患に関しては播磨姫路医療圏域の肝疾患専門医療機関に選定され、地域の肝癌撲滅運動の中心的役割を担っています。

【循環器科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他のもの）	116	1.89	3.54	0.86%	70.38
K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術（心房中隔穿孔をとこなうもの）	57	2.46	4.37	1.75%	67.33
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	35	7.03	8.11	5.71%	73.54
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	34	0.00	0.62	0.00%	68.12
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術 不安定狭心症に対するもの	33	0.09	16.24	0.00%	72.61

循環器科ではカテーテル検査で異常を認めた患者様に心臓カテーテル治療（風船治療-PCI）で細くなった心臓の血管を広げたり、ロータブレード（高速回転のドリル）で削ったり、心臓の血管の中に金属の網目状の筒（ステント）を入れる治療を行っています。治療後数時間で歩行でき、治療後1～2日で退院可能です。  
 不整脈の原因となる電氣的異常を焼灼するアブレーション治療を行っています。

【小児科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K300	鼓膜切開術（片側）	—	—	—	—	—
K7151	腸重積症整復術 非観血的なもの	—	—	—	—	—

小児科では高熱、鼻汁より中耳炎を発症し鼓膜切開術を施行しています。  
 腸重積では透視下で整復術を行っています。

【外科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	54	1.78	7.48	0.00%	64.67
K6335	ヘルニア手術 鼠径ヘルニア	30	0.70	3.73	0.00%	62.53
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	24	4.71	16.04	0.00%	76.92
K718-21	腹腔鏡下虫垂切除術 虫垂周囲膿瘍を伴わないもの	23	0.39	6.48	0.00%	39.35
K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	21	0.81	4.57	0.00%	64.33

外科では胆嚢炎や胆石症に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術が最も多く、次いで鼠径ヘルニアに対する鼠径ヘルニア手術となっています。  
 高齢者に対しても、術前リスク評価を十分にし、大腸癌等の悪性腫瘍の手術に取り組んでいます。  
 消化器内科医、麻酔科医、病理医とともに術前術後カンファレンスを行い治療方針を総合的に検討し、患者さまに最適な治療を提供しています。

【整形外科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0461	骨折観血的手術（大腿）	49	5.78	36.96	12.24%	83.12
K0462	骨折観血的手術（前腕）	40	2.60	19.65	0.00%	60.98
K0821	人工関節置換術（膝）	36	2.28	36.78	0.00%	74.50
K0811	人工骨頭挿入術（股）	23	5.83	48.61	4.35%	82.87
K0463	骨折観血的手術（鎖骨）	21	2.29	23.62	0.00%	62.95

整形外科では四肢の骨折観血的手術が多くなっています。次いで膝関節・股関節に対する人工関節置換術、人工骨頭挿入術の手術が多くなっています。  
 高齢者の骨折に対しては、内科医、麻酔科医師と検討し積極的に手術療法を行って早期離床ができるように治療を行っています。

【形成外科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（肩，上・前腕，大・下腿，躯幹）	—	—	—	—	—
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部・4 cm以上）	—	—	—	—	—
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	—	—	—	—	—
K0051	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部・2 cm未満）	—	—	—	—	—
K0151	皮弁作成術、移動術、切断術（2.5 cm <sup>2</sup> 未満）	—	—	—	—	—

形成外科では臀部、足底部、肩の軟部腫瘍に対して行った四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術が多くなっています。  
次いで皮膚・皮下腫瘍に対する皮膚、皮下腫瘍摘出術となっています。

【脳神経外科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	14	0.00	11.57	7.14%	78.93
K1643	頭蓋内血腫除去術（開頭）（脳内）	—	—	—	—	—
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	—	—	—	—	—
K6101	動脈形成術、吻合術（頭蓋内動脈）	—	—	—	—	—
K145	穿頭脳室ドレナージ術	—	—	—	—	—

脳神経外科では慢性硬膜下血腫に対する慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術が最も多くなっています。  
次いで開頭による頭蓋内血腫除去術、脳動脈瘤の破裂を防ぐため、瘤内に血流を遮断する脳動脈瘤頸部クリッピングを行っています。

【産婦人科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K877	子宮全摘術	—	—	—	—	—
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 腹腔鏡によるもの	—	—	—	—	—



K861	子宮内膜搔爬術	—	—	—	—	—
K8654	子宮脱手術 腔壁形成手術及び子宮全摘術（腔式、腹式）	—	—	—	—	—
K8881	子宮附属器腫瘍摘出術（両側） 開腹によるもの	—	—	—	—	—

産婦人科の手術は腹腔鏡手術が中心で、大きなものでなければ開腹することはありません。  
 良性疾患では子宮筋腫、卵巣腫瘍に対して腹腔鏡下に子宮全摘術、卵巣腫瘍摘出術を積極的に行っています。  
 子宮粘膜下筋腫、子宮内膜ポリープ、子宮体癌疑いに対して子宮膜搔爬術も行っています。

【眼科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K28210	水晶体再建術 眼内レンズを挿入する場合 その他のもの	55	0.00	0.00	0.00%	76.53

眼科では白内障手術を行っています。

【耳鼻咽喉科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K3772	口蓋扁桃手術 摘出	20	0.85	6.30	0.00%	37.15
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 I V型（汎副鼻腔手術）	—	—	—	—	—
K3932	喉頭腫瘍摘出術 直達鏡によるもの	—	—	—	—	—
K4631	甲状腺悪性腫瘍手術 切除	—	—	—	—	—
K331	鼻腔粘膜焼灼術	—	—	—	—	—

耳鼻咽喉科では扁桃肥大、扁桃炎等に対して行う口蓋扁桃手術が最も多くなっています。  
 次いで慢性副鼻腔炎に対して行う内視鏡下鼻・副鼻腔手術IV型となっています。

【泌尿器科】

Kコード	名称（部位）	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K80360	膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 その他のもの	36	1.31	9.00	0.00%	76.31
K8412	経尿道的前立腺手術 その他のもの	15	4.80	12.00	0.00%	75.00
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	—	—	—	—	—
K7811	経尿道的尿路結石除去術 レーザーによるもの	—	—	—	—	—
K802	膀胱腫瘍摘出術	—	—	—	—	—

泌尿器科では膀胱癌に対して行った膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）が多くなっています。  
次いで前立腺肥大症に対する前立腺手術（経尿道的手術）となっています。

## 7. その他（DIC,敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率）

・播種性血管内凝固、敗血症、真菌症、手術・術後の合併症の患者数と発生率を集計しています。

・公表の集計 

	—
--	---

○播種性血管内凝固

感染症などによって起こる、全身性の重症な病態です。

○敗血症

感染症などによって起こる、全身性炎症反応の重症な病態です。

○真菌症

真菌による感染症です。

◇手術・処置などの合併症

手術や処置などに一定割合で発生してしまう病態です。術後出血や創部感染などがあげられます。

合併症は、どのような術式でもどのような患者さんでも一定の確率で起こり得るもので、医療ミスとは異なります。

最投入DPC分類	傷病名	入院契機	患者数	発生率
130100	播種性血管内凝固	同一	—	—
		異なる	20	0.36%
180010	敗血症	同一	35	0.63%
		異なる	70	1.26%
180035	その他の真菌感染症	同一	—	—
		異なる	—	—
180040	手術・処置等の合併症	同一	48	0.86%
		異なる	—	—

医療の質の改善に資するため、臨床上少しでも改善すべきものとして定義される感染症および合併症の発症率を示したものです。

「入院契機」で入院の原因となった病気がもとで感染症や合併症を発症した場合を「同一」、入院の原因とは異なって感染症や合併症を「異なる」としています。

当院においては入院契機と同一病名の症例が少なく、免疫力が低下している時に合併して発症するケースが多いことがわかります。

手術・処置等の合併症については合併症を主訴として入院されていることがわかります。